

令和4年度 第4回東区まちづくり懇話会議事録（要旨）

1 開催日時

令和5年（2023年）3月15日（水） 午後2時

2 場 所

東部公民館 大ホール

3 出席委員（順不同）

西森、餅崎、山中、橋本、栢木、西山、大島、有働、山口、佐藤、
豊田、石橋、西富

4 次 第

- (1) 東区まちづくりビジョンの検証について（報告）【資料1・資料2】
これからのまちづくりの方向性について（意見交換・討論）
- (2) 令和3年度の東区まちづくり懇話会開催結果について【資料3・資料4】
- (3) 事務連絡
 - ・令和5年度の懇話会について
 - ・“東区まちあるきマップ”について

議事発言要旨

◆ 会 長

議事（１）「東区まちづくりビジョンの検証について」説明をお願いします。

● 事務局

【資料１・２】について事務局から説明。

◆ 会 長

事務局から「東区まちづくりビジョンの検証について」報告があったが、これからの東区のまちづくりの方針に関して、我々委員の中でも意見交換を行う。

● 委 員

アンケートの回答率について、３３％だったことについて、例年に比べてどうだったのか。

● 事務局

前回（Ｈ２４年度）のアンケートが２７，６％で、今回は３３．５％。同規模のアンケートについては、３０％超える場合回答率は高いと考えている。

● 委 員

１６歳以上ということだが、回答者に高齢者が多い場合は回答内容が偏るので、今後、年齢別にアンケートしても良いと思う。

● 委 員

基本方針３に関する事で、高齢者の転倒予防、骨粗しょう症予防の取組を進めていただければと思う。

また、「みんなで助け合う福祉のまちづくり」について、お年寄りの徘徊が問題。熊本市の独自の取組として「[どこシル伝言板](#)」というのがある。二次元コードを靴や服、帽子にアプリケとして焼き付けておくと、見つけた方が携帯で読み取り、家族に連絡ができるシステム。これがあまりオープンにされていない。もっと周知していただきたい。

基本方針の５「暮らしやすく活気あふれるまち」について、コロナ前は区民祭りなどのイベントに医師が出向き、血糖チェックを行っていた。そろそろ、そういった活動も再開できればと考えている。

● 事務局

認知症の問題について、重々認識を持っており、認知症サポーター養成講座等の活動継続しつつ、ご指摘のあった「どこシル伝言板」の取組についても、広く周知していく。

● 委 員

資料1のP11（基本方針1）の中にある、「地域団体の育成・支援」について、まちづくりセンターの中にICTに関する相談窓口を開設とあるが、具体的にどのような計画で進んでいるのか。

● 事務局

既にまちづくりセンターの一角にテーブルとパソコン等を設置している。例えば、地域団体の役員がリモート会議をしたいとの要望があった際の手法説明、支援を主に行っている。

● 委 員

ZOOMとかを使っているのか。それとも、使い方がわからない方への支援する体制ができるのか。

● 事務局

ZOOM等のリモート会議支援だけでなく、事業として地域団体の役員を対象としたICT講座を開催し、現在2通りの手法で支援している。

◆ 会 長

講座利用者からの反応はいかがか。

● 事務局

各講座定員15名程度で募集し、定数まで集まらなかったが、LINE等の使い方講座などは評判が良かった。

エクセルやワード講座については、普段から使っている方からも、習いに来てよかったという声をいただいている。

● 委 員

ICT講座に参加したが、自分が参加した回は3名ほどで参加者が少なかった。

内容はクラウドを使って同じ資料を見ながら意見交換する方法など、非常に高度で面白い講座だったが、参加者が少ないのはどこに原因があるのかと思った。

今から先はインターネットを使ったりリモートミーティングの必要性がどうしても出てくる。年を取るとITに拒否反応を示す人が多いが、自治会などは年寄りが多い。若い

人を呼び寄せる取組が必要。

若い担い手を誘い込む手法が難しい。良い環境で講座をしていただいております、利用すると便利なのは明らかなのに、地域の方は受講しない。地域のと行政の距離を縮める必要がある。

グーグルアンケート（Google form）はとても便利だが、そういったことを知らない事には取組ができない。依然として電話を使ったやりとりに浸っている。根本的な解決のため新たな技術に目覚めさせるためには、市の講座だけでは無理があるように感じた。地域の活動を引っ張りこむ手立てがいる。手法は思いつかないが、地域活動をする上で困っていることはあるはずなので、現場に会った具体的な取組手法を教えてください仕組みが欲しい。

お互いに思っていることがかみ合わない状況なので、マッチングする様に頑張ってください。

◆ 会 長

誘い込むという、難しい話になるが、事務局で現時点で何か検討していることはあるか。

● 事務局

来年度もＩＣＴ講座の予算を確保しており、地域の役員の方々にＩＣＴ機器に慣れていただくため、e スポーツを取り入れた“遊び感覚”から慣れていただくような手法を検討している。本日いただいた意見も取り入れ、事業を組み立てていく。

● 委 員

私の所属する自治会は、５年前まで電話で会議の出欠連絡を行っていた。最近は役員のグループＬＩＮＥを作り、簡単に連絡が終わるようになった。

高齢の方もＬＩＮＥをしたいと言い、最初やり方を教えるがすぐにわからなくなってしまふ。まちづくりセンターに行くと、分からない操作方法を教えていただくような対応をいただければ良いと思う。

広報方法を変えていただき、高齢者が参加しやすい気遣いが欲しい。また市のＬＩＮＥの高齢者への普及も進めてほしい。

◆ 会 長

ＬＩＮＥグループの発案者はどなたでしょうか？

● 委 員

みなさんＬＩＮＥは入っていたので、「じゃあ作ってみよう」となった。イベントの決まり事もすぐに決まる。事務局に行かなくても物事が進むので便利。

◆ 会 長

LINE の件は、別に本学の学生が、地域の地域の自治会の全員のグループ LINE を作ろうと、学生と一緒にやる形で進め、「お孫さんをつなごう」という形で進めると、意外と入っていただけたとのことである。

● 委 員

参考までに、私の自治会は公式 LINE を作成し、420 戸中 235 の参加がある。

半数以上はスマホを持ち、LINE をしていることが分かった。

河川の水位が上がっているときに、注意情報をLINE で流すと一瞬で通知できるので、非常に便利。

しかし、「LINE 公式アカウント」が令和 5 年度に料金プラン変更により実質有料化してしまうので、LINE オープンチャットへの切り替えを検討している。

LINE が年寄りも取り組みやすい。一回使い方を教えたら、孫の写真をよく送ってくる。その延長に町内会からの情報をダイレクトに伝えることが出来てかつ通信料のみなので、他の団体でも活用してほしい。

● 委 員

資料 1 の P 1 4 に「災害が発生した際に、高齢者の方、障がいがある方などの連絡体制等を整えておく必要がある。」と P 1 6 「マンション等の集合住宅では、近所の付き合いが特に少ない。高齢者の単身、2 人世帯も増えており、共助の仕組みの充実化が必要である。」とあり、一人ひとりの状況が違う中でこれを進めて行くのは大変だと思うが、区としてどのような考えがあるのか。

● 事務局

災害発生時の高齢者や障がい者の方々については、危機管理防災総室と健康福祉局が避難行動要支援者の把握を行い、区やまちづくりセンターに名簿が届く仕組みになっている。今現在制度を整理中ではあるが、自治会や民生委員と災害発生時に協力できるような仕組みづくりを進めている。進展があったらお知らせする。

● 委 員

マンションと戸建てでは状況が違うと思うので、そういったことも踏まえて検討を進めていただきたい。

● 委 員

障がいのある方や単身高齢者への防災の件について、“自分で逃げられない”ということがある”。私どもの団体では、地域の障がい当事者の方へ地域の避難所や、ハザードマップ等を用いた説明する活動を始めている。しかし、課題として、“車いすで逃げるこ

の限界”、“見た目では分からない障がい”のある方の把握など、さまざまなハードルがあり、日々の業務でも考えている。個別避難計画も含めて、私たちにもできることがあれば、協力していきたい。

また、障がい者の中には、“外に出ない障がいの方（見た目だけでは障がい者と判断が難しいかた）”も居り、そういった方用の「[ヘルプマーク](#)」の普及啓発活動を行っている。「配慮が必要な人が気づいていただける」ため、それらの認知度向上の推進と一緒にしていただくと、東区の中で災害時や避難訓練で活用ができると考える。

● 事務局

東区と危機管理防災総室との会議の中でも、地域の声をしっかり吸い上げてほしいと申し伝えている。特に障がい者を支援されている団体と意見交換をさせていただいたり、市の計画を示したりする中で意見交換が出来ればと考えている。

今後計画が進む中で、相談させていただくので、ご協力をお願いします。

● 委 員

画図地域に住み 10 年になる。私が子どもの頃いた地域では、父親が土日に排水溝の泥を出したり、大人たちが集まって廃品回収をしたりしていた。自分も同じようにやりたいが、「今の親はこどもの習い事で参加できない」という課題にあたった。

ご近所も名前は知っているが、挨拶程度しかなく、そこも課題だと思っている。

他都市で地域活動活性化の成功事例などはあるのか。

そこを調査することからしないと、こういった話をしても「これが本当に結びつくのか？」と考えてしまう。年々、「青年経済人」と「こども」と「高齢者」の関係性が、親族が住んでるとかでない限り、全く繋がらないと感じている。

地域の運動会に参加し、飲み会に参加するなどあれば良いが、他所の地域で成功事例があれば、真似してみると良い。

また、子ども会について地域によっては無くなっているところもあるが、東区の管轄では把握はしているのか。

● 事務局

子ども会については、詳細は把握していないが、自治会長と会話する中で無くなったという話がここ 1、2 年で増えている。

● 委 員

私は、地域が活性化するには“まず子どもから”と考えている。子どもが元気に走り回る地域づくりが大切だと思っている。

不登校が増えている件について、子育て世代として手を差し伸べる必要があると考えている。西区の吉野中学校の取組で、オンライン授業を行い、転校する子もいる。

メタバースも含め、東区が先進的な取組をいただければと思う。

● 事務局

今は個人情報の取り扱いで入学する子の情報が教えられないようになってきており、班を組み登下校ということも困難になっており、交流減少する要因になっている。今後、御意見も踏まえ“何が良いのか”を考えてゆく。

また、子どもたちの交流について、東部まちづくりセンターの地域理解促進事業で小学校に入る子どもとその親の交流事業を行い、その中で地域活動について理解を求める活動もしている。

● 委 員

PTAの方もコロナの影響で元気が無い。ラジオ体操も無くなっている。ラジオの音がうるさいという苦情もあり、出来る場所も減っている。

子ども会がどうして存続しないか聞くと、“親が忙しくてそれどころじゃない”と返ってくる。廃品回収をしなくても大丈夫か聞くと“費用が必要になったら親が出すから”と、今の親はそのような考え。

小学校新一年生の名簿については、学校は教えてくれない。子ども会の会長が困ったときに、自治会で持っている名簿で調査した。

ごみステーションについて、行政も色々やってはいるが、歳をとった方はプラとペットボトルの区別ができない。声掛けして注意しても、何曜日かも分かっておらず改善が難しい。現在その様な状況である。

● 委 員

テーマごとに書いてあるが、一つ一つ独立しているように見えるので、連動させることはできるか。例えば、健康づくり推進で「8020推進員」や「食生活改善推進員」の養成とあるが、推進員が活躍する場があまり見えない。イベントに推進員が出向くことを目標にされているかもしれないが、地域で開くマルシェ等の小さいイベントに参加し、底辺から活動を宣伝することが必要ではないか。

大きなイベントを開催するより、小さいイベントに参加する方が楽で、お金もかからず、底辺を広げる活動になると思う。

● 事務局

「8020推進員」・「食生活改善推進員」はここ2、3年イベントに参加できる状況ではなかったので目立たなかったが、地域の小さいグループを相手に地道に活動を続けて

いる状況。コロナが落ち着いてきたこれから活発に活動して行く予定。いただいた御意見を踏まえ、次年度は活動の場を広げて行きたい。

● 委 員

私どもの団体では子育て支援活動の中で「食生活改善推進員」に来ていただくプログラムを行っている。子どもの栄養食や水に関する研修、実食などを行っていただき食事地域で活躍していただいている。

● 委 員

健軍商店街で昨年開催した「食と健康まつり」の中で、「8020 推進員」にも来ていただき、場を設けさせていただいた。まつりの実行委員の中から、多世代交流の場を設けたらどうかと意見があったため、今後はそこも踏まえて検討を行っていく。

● 委 員

私たちの団体も食と健康まつりに販売として参加した。その際、来られた方に「今日は何のイベントですか？」と聞かれた。周知が足りていなかったと思った。

例えば、西区や南区のように企業とコラボして大々的にできないだろうか。協賛により予算も増えるし、来られる方も楽しめるのではないかと。地域企業にもプラスにもなるので、実行委員に良い方向に進めていただきたい。

また、現在卵の価格高騰等が騒がれているが、生産者からすると今が適正な値段。小麦も値段が上がっているが、国産は全体の 2 割。殆どが外国産。

横断的になるが、教育の場と連携して、生産から食卓に並ぶまでの食育をすることが大事ではないかと思っている。東区の実践の一部に取り入れていただきたい。

● 事務局

区役所が出来たばかりの時は、区内に農業に関する課があったが、組織改編により無くなっている。今後、事業を検討する際に関係課と連携し、出来ることが無いのか探していきたい。

● 委 員

先ほども意見が出ていたが、一つひとつ単独ではなく、関連付けた取り組みが必要。

民生委員や社会福祉協議会の活動の中で、高齢者の見守りや子育てで色々見てきたが、公営住宅が老人ホーム化してきている。最初は家族で住んでいた世帯も、子どもが独立し老夫婦のみまたは片親のみになるということが進んでいる。

今年に入り、私の住む団地でも、既に 2、3 件、一時行方不明になった。結論として入院されていたこと等だったが、近所の人も誰も知らなかった。理由としては、体調不

良時に救急車を呼んだ際、サイレントで救急車が来ていた。

どうやって地域の人が把握するかが課題。地域でアンケートを取ったところ、地域の方も関心を持っているが、「誰がどこに住んでいるか」をそもそも把握していないことが判明した。そういった実態に対し、どんな解決策があるのかを行政と一緒に考えて行きたい。

不登校やいじめに関しても、いろいろ原因がある。地域の子どもたちに対する見守り声掛けや支援を一体となってやっていく時期だと思う。

昔はとなり近所で行っていた子どもたちの声掛け見守りについても、「行政からの情報が来ない」と言うのではなく、「自分たちで探す・作る」という方向に発想を切り替える必要がある段階にあると感じている。

◆ 会 長

他に、発言していない委員から御意見はあるか。

● 委 員

資料がとても見やすく、よく作ってあると思うが、取組や来年度区の目指すことを、もっといろんな人に知っていただきたい。行政の取組を気に掛けるのは一部の方なので、高齢者の方や子育て世代にも興味を持っていただきたいと思った。

◆ 会 長

時間になりましたので、以上で本日の議事を終了する。

委員の皆様、様々な御意見ありがとうございました。本日皆様から頂いた御意見を、東区の今後の取組に反映させていただきたい。

では、続いて議事の（２）「令和５年度東区まちづくり推進経費の要求状況」について、事務局より説明をお願いします。

● 事務局

【資料３・４】について事務局から説明。

◆ 会 長

事務局からの説明に対し、御意見・ご質問はあるか。

● 委 員

eスポーツはインターネットを使って遊ぶもので、スポーツと呼ぶか違和感がある。いずれにしても、行政が音頭取ってやる事柄では無いと思う。地域の情報ネットワーク活用支援として行うなら、民間のeスポーツをやっている事業を評価し、公共的にサポ

ートするような形にしないと、区が単独でイベントをやっても成果が上がらないと思う。ゲーム好きの若者しか来ないのではないかな。

行政として単独でやるのか、民間とタイアップするのか、地域と絡めてやるのか、手法をよく検討しないと、当初の予定と違う結果になるのではないかと心配している。工夫するなら良いものだと思っているが、世界に乗り遅れないようにするためという発想では厳しい。いろんな分野と二人三脚で工夫してほしい。

● 事務局

いただいた御意見を踏まえて、事業は検討していく。

まずは、高齢者がスマホなどの機械に遊び感覚で馴染んでいただくことで、機器に興味を持ってもらい、地域にLINE等の活用に関わり付くような支援をして行きたい。

● 委 員

地域コミュニティづくり支援補助金について、補助の縛りがあり、弱小の団体では活用が難しい。活動したあとの事業にも金額を問わず支援していただくような緩和を検討いただきたい。

● 事務局

補助金の制度上、100%支援は難しいが、補助金額の割合については変更を検討しているところ。

● 委 員

補助率 100%までは求めないが、事業内容を見てもっと柔軟に補助いただけるようになると活用しやすいと思う。

● 委 員

安全安心まちづくり事業の中で、高校生に対する事業をされているが、高齢者に対する交通安全教育及び、免許証返納後のフォローに関する事業を取り入れた方がよいと思う。今後超高齢化社会に向かっていくが、元気な高齢者は自転車で活動し、危ない行動をよく見かける。警察との連携になり大変かと思うが東区から提言いただければと期待する。

子育てについて、新たに子ども局ができると聞いている。子どもに関するセクションが新たにできる中、子どもに対し地域はどんなことが出来るのか提言できればと考えている。また、学校によって格差があるが育成クラブの在り方も提言して行きたい。

◆ 会 長

他に意見は無いか。

無いようなので、これで議事を終了する。

進行を事務局にお返りする。

● 事務局

いただいた御意見は今後の事業に役立て行く。

● 事務局

最後に、2点事務連絡を行う。

1点目、令和5年度は東区まちづくり懇話会の委員改選の年となる。

後日改めて委員の改選に関する推薦の依頼や、委員の公募を行う。

委員の皆様には、今後ともご協力をお願いしたい。

2点目、「東区まちづくりマップ」について。

東区役所と東海大学熊本キャンパス生が、昨年度実施した「学生参加型 企画開発会議」事業の延長として、学生提案を基に作成した。作成の際にも学生と一緒に地域を歩き、見つけた魅力をマップに掲載している。

● 事務局

以上を持って、令和4年度 第4回東区まちづくり懇話会を終了する。